

■さいたまでダンスにひたる3日間■『死の天使』+『videodance2008』

ヤン・ファール

死の天使

4面のスクリーンから語りかけるフォーサイスに、
イヴァナ・ヨゼクのアニマルなライヴダンスが応酬する。
360度を埋め尽くす観客と四方から迫るフォーサイスとに、
独りきりで対峙するイヴァナの心境は？
ヤン・ファール演出『わたしは血』でも
特異な個性を見せてくれたイヴァナの、新たな挑戦に期待。



© Wonge Bergmann

フォーサイス vs イヴァナ

イヴァナ・ヨゼク「カンパニーの他のダンサー達と一緒にパフォーマンスをする時は、開かれた空間というか舞台がほとんどだったから、最初はその狭さ、観客との距離の近さに驚いたわ。それも360度。どこにも死角なしって感じなんですもの(笑)」

確かに。まるで教室のような部屋に入ると、その真ん中にイヴァナ・ヨゼクがいて、いつの間にか『死の天使』が始まっている。我々観客はイヴァナとのあまりの近さに、時には見えてはいけないものを覗き見しているような感覚に陥るのだ。

「ヤン(ファール)と1対1で作品を創り上げるだけでもエキサイティングなのに、今回はヤンと友人のウィリアム・フォーサイスが映像で登場してくれる。しかも映し出されるスクリーンが1ヶ所

取材・文=佐藤友紀(ライター)

じゃないから、それまで私の動きをジッと見ていた観客たちがあれれ? と周りを見回す姿がおかしくて(笑)。フォーサイスも、大真面目な表情の中のユーモアが絶品で。変則的な形だけど、共演できて光栄だったわ」

観客があまりにも近くにいると、逆にそこに誰もいないが如く演じるパフォーマーも多い中、イヴァナは「1人1人とのコミュニケーションをパフォーマンスに反映させるような感じで動いている」という。

「そういう意味では、毎回表現するものが違うし、観客とのキャッチボールの仕方も違う。『死の天使』の解釈まで微妙に違う。まるで生き物のような演目なのよ」

PROFILE



ヤン・ファール Jan Fabre

1958年ベルギー生まれ。パフォーマンス・アーティスト、演劇やオペラの演出家、振付家、作家、ビジュアル・アーティストとして作品を生み出し続ける。現代における最も革新的かつ多才なアーティストの一人。代表作に『劇的狂気の力』(84年)、『タンホイザー』(2004年)など。07年、ザルツブルク音楽祭に招聘され、『Requiem für eine Metamorphose』を発表。昨年度、彩の国さいたま芸術劇場で上演された『主役の男が女である時』、『わたしは血』は、大きな話題を集めた。



イヴァナ・ヨゼク Ivana Jozic

1975年クロアチアのザグレブ生まれ。ロンドン・コンテンポラリー・ダンス・スクールにてダンスを学ぶ。卒業後ロンドン、スロヴェニア、スイスなどで活躍。2002年にヤン・ファールと活動を始め、『わたしは血』、『The Crying Body』などに出演。03年、アヴィニョン・フェスティバルの委嘱により、ヤン・ファールが彼女のためのソロ作品『死の天使』を創作。

●●●● DANCE ●●●●

ヤン・ファール『死の天使』(ソロ・ダンス)

【日時】2月8日(金) 開演 20:00

9日(土) 開演 14:00 / 18:00

10日(日) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『死の天使』(上演時間:50分) 【構成・演出・テキスト】ヤン・ファール

【振付】ヤン・ファール イヴァナ・ヨゼク

【出演】イヴァナ・ヨゼク ウィリアム・フォーサイス(映像出演)

【チケット(税込)】好評発売中 全席自由 一般:4,000円 メンバーズ:3,600円

※大ホール舞台上に置かれたクッションにお座りいただきます(150名限定)。

脚の不自由なお客は、当日、係員にお申し出ください。